

南畝の多岐にわたる偉大な業績をおよそ180点の資料で紹介

没後200年 江戸の知の巨星 大田南畝の世界

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で

2023年4月29日（土・祝）～6月25日（日）開催

たばこと塩の博物館では、2023年4月29日（土・祝）から6月25日（日）まで、「没後200年 江戸の知の巨星 大田南畝の世界」展を開催します。

狂歌の名人「しょくさんじん蜀山人」こと大田南畝（おおたなんぼ1749～1823）は、平賀源内や山東京伝、版元の蔦屋重三郎や浮世絵師の喜多川歌麿などとも交流のある、華やかな江戸の出版界の中心人物であり、現代でも落語や時代小説などに登場します。幕臣としても有能で、御家人という低い身分ながら豊富な知識と能力によって登用され、重要な任務をこなしていきます。なによりも、同時代の事件・風聞から歴史的な典籍まで、目にしたあらゆる事物を書き残した功績は大きく、南畝の記録がなければ埋もれてしまった事柄も多かったと考えられます。

南畝没後200年記念となる本展では、南畝自筆の書物、版本や肉筆画、版画など約180点を通して、幅広く、奥深い南畝の業績を、7つの章で紹介します。

さらに、南畝の生涯の節目ごとに彼を支えた知友で、たばこ屋でもあった平秩へずつ東作と蘭奢亭薫の紹介も交え、江戸の知の巨人の姿を見つめます。

※本展は会期を前期と後期に分け、大幅な展示替えを行います。



Photo.01 石崎融思画 大田南畝肖像(部分) 個人蔵

展覧会の構成と展示作品は別紙参照

開催概要

名 称：「没後200年 江戸の知の巨星 大田南畝の世界」

ヨ ミ：ボツゴ200ネン エドノチノキョセイ オオタナンポノセカイ

会 期：2023年4月29日（土・祝）～6月25日（日）

〔前期：4月29日（土・祝）～5月28日（日） 後期：5月30日（火）～6月25日（日）〕

主 催：たばこと塩の博物館 後援：日本近世文学会 法政大学江戸東京研究センター

会 場：たばこと塩の博物館 2階特別展示室

所在地：東京都墨田区横川 1-16-3（とうきょうスカイツリー駅から徒歩10分）

電 話：03-3622-8801 / F A X：03-3622-8807 / U R L <https://www.tabashio.jp>

入館料：大人・大学生：100円 / 満65歳以上の方（要証明書）：50円 / 小・中・高校生：50円

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日

※やむをえず開館時間や休館日を変更する場合があります。
最新の開館情報は、公式ツイッター（@tabashio_museum）
かお電話でご確認ください。

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：褒地（ほろち）由美子

E-mail：horochi@tsmuseum.jp

第一章 南畝の文芸

南畝は幼少時から神童と目され、ことばを自在に操る天賦の才に恵まれた人物でした。漢詩を出発点とし、その名を世にとどろかせた狂詩、盟友らとともに多くの人を巻き込んで江戸に大流行をもたらした狂歌、さらには戯作も手がけました。この章では、生涯を通じて作り続けた漢詩をはじめ、南畝が手がけた諸ジャンルの作品を紹介します。



Photo.02
ねぼけせんせいぶんしゅう
寝惚先生文集
個人蔵 [前・後期展示]

新宿のたばこ屋で学友でもあった平秩東作の手引きにより出された南畝の出世作で、「寝惚」は生涯にわたる呼称となった。当時の漢詩人たちの『○○先生文集』の形式を模擬しながら江戸の風俗や流行を描き出している。



Photo.03
ろうらいし
老萊子
青裳堂書店蔵
[前・後期展示]

南畝の母の数え60歳を祝って狂歌会が開催された。当時の有名狂歌師が一堂に集い、祝いの言葉を寄せるという豪勢な会で、その成果をまとめたのが本書。



Photo.04
さんじゅうろくにんきょうかせん
三十六人狂歌撰
個人蔵 [前・後期展示]

左右どちらの図版にもある「四方赤良」は南畝の筆名のひとつ。寝惚先生の名にちなんでか、寝てばかりの南畝の姿が肖像画として描かれている。



Photo.05
ここんきょうかぶくろ
狂歌百人一首 古今狂歌袋
たばこと塩の博物館蔵
[前期展示]

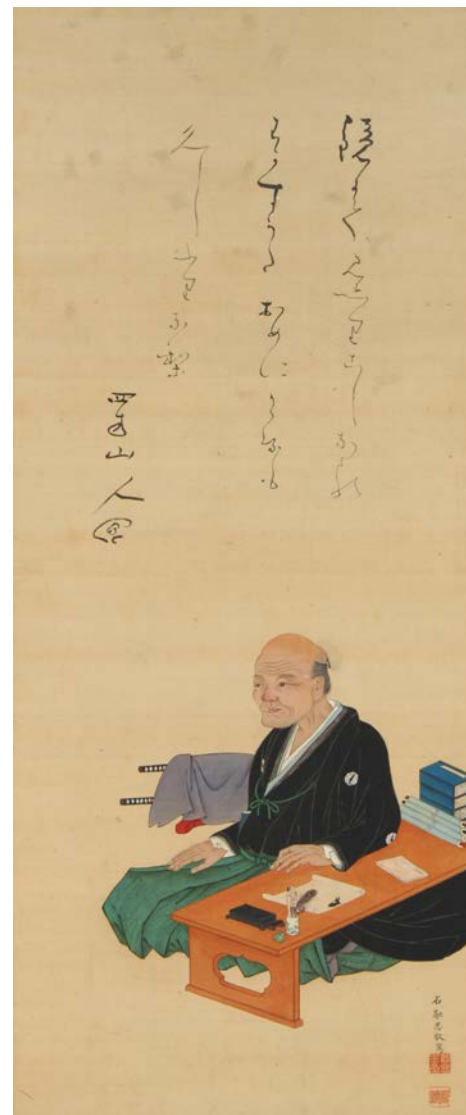


Photo.06
かまくらたいへいのいとぐち
鎌倉太平序
個人蔵 [前・後期展示]



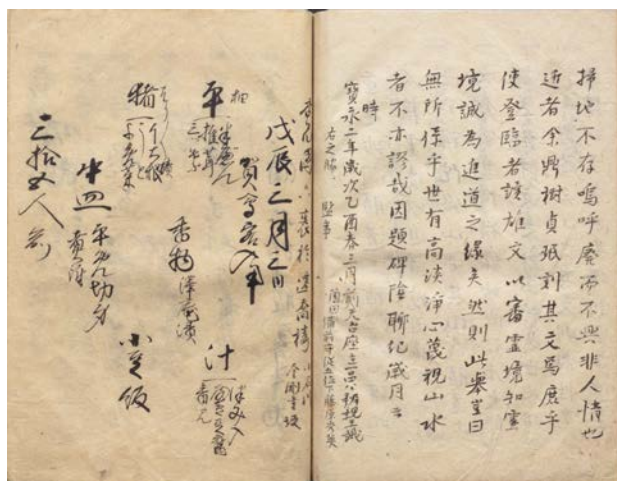
恋川春町画作、「当世の大通需」の「なんぼ(南畝のこと)」を主人公にした黄表紙。

Photo.01
石崎融思画 大田南畝肖像
個人蔵 [前期展示]

第二章 情報編集者としての貌

南畝のもう一つの大きな看板といえるのが随筆です。当時の随筆は、筆者の考えや思いといった内面を綴ったタイプのものではなく、耳目に留まった書物の記載や見聞、伝承などを記録したものでした。とりわけ、『一話一言』は、南畝の随筆として最も有名というだけでなく、江戸時代を代表する随筆ということができ、私たちに多くの情報を与えてくれます。

この章では、自筆の部分を多く含む『一話一言』をはじめ、南畝の随筆のいくつかを紹介します。



いちわいちげん

Photo.07 一話一言

独立行政法人国立公文書館蔵 [前・後期展示]

一話一言には、南畝が見聞きしたさまざまな事柄を書き留めており、自分の数え六十歳の祝いの膳なども記録している。

※図版の巻は後期展示。



かなせつ

Photo.08 仮名世説 個人蔵 [前・後期展示]

南畝が書き留めた随筆で、死後に出版された。この図版の挿絵は南畝の特徴を捉えた似顔絵である。

第三章 典籍を記録・保存する

複写という手段のない時代、南畝は書物を借りては気づいたことを記入しつつ自ら写し取り、時に身近な人たちの手も借りて書写させ、蔵書に加えていきました。また、書物だけではなく、紙片に記録したものを貼込帖という形で残していきました。そして、それらを世の人に届けようと、叢書を編纂しました。

この章では、南畝が集めた書物や南畝が写したものを展示し、多くの書物の伝存に努めた姿を紹介します。



Photo.09

すんしふい
寸紙不遺

国立国会図書館蔵 [後期展示]

どんな紙片もなくさない、という表題の通り、狂歌会や芝居関係のチラシ類まで、南畝の身近にあった紙片を貼り込んだもの。

Photo.10

大田南畝印譜

個人蔵

[後期展示]

南畝が自身の蔵書や墨跡などに用いた印章34点を捺した軸。南畝没後に作られたと見られる。



第四章 歴史・地理を考証する

南畝の探究心は幅広く、伝統的な事物から、庶民の風俗・習慣の歴史まで及びました。中でも江戸の地理や、遊里を含む風俗・文化の成り立ちへの関心は強く、仲間の戯作者・山東京伝らを巻き込んで、懐古趣味と考証随筆の流行をもたらしました。

この章では、南畝が仲間とともにまとめた奇物・珍物集や地誌などを紹介します。



りゅうかんひやくず

Photo.11 流観百図

大妻女子大学図書館蔵 [前期展示]

流観百図は、南畝編集の古器物図録。当時、中野の宝仙寺にあった八代將軍吉宗にお目見えした象の骨の図も写されている。



きんせいきせきこう

Photo.12 近世奇跡考

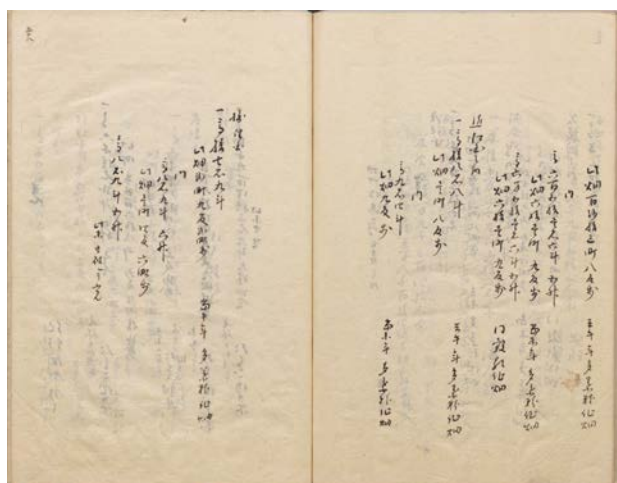
独立行政法人国立公文書館蔵 [前期展示]

南畝と親しかった山東京伝の考証随筆。展示資料は南畝旧蔵で、南畝による多くの書入れがある。

第五章 公務に勤しむ

南畝の家は、將軍に直接謁見することができない下級武士の家柄でした。南畝の出世の道は陰しいものでしたが、自身の知識と機知で幕府の人材登用試験を突破し、数え46歳で幕府の文官に登用されました。有能な幕臣として重用される傍ら、公務に関わる貴重な記録を残しました。

この章では、南畝の残した任務に関する記録などを紹介します。



ちつきょうよひつ

Photo.13 竹橋余筆

独立行政法人国立公文書館蔵 [前・後期展示]

支配勘定を任せられた南畝は竹橋の書物蔵で、勘定所の帳面を整理することになった。帳面整理の合間には、勘定所の古い記録を写しており、元禄末の全国のたばこ生産についても写し取っている。

※図版の巻は後期展示。



きちんはちぜつ

Photo.14 崎鎮八絶

東京大学総合図書館蔵 [前期展示]

南畝が長崎に赴任していた文化元年(1804)10月ごろに詠んだ七言絶句8首の絵入り漢詩集。

第六章 同時代の証言者として

筆まめな南畝は、自らが目撃したことや体験したこと、さらには古い記録の筆写など、形式を問わず多くの記録を残しました。大量かつ詳細なこれらの記録は、この時代を知る資料として大変有用なものです。現代の私たちが江戸時代の風俗や流行、事件などに触れる際、その情報源が南畝の記録によることも少なくありません。

この章では、南畝が残した江戸時代のさまざまな記録を紹介します。

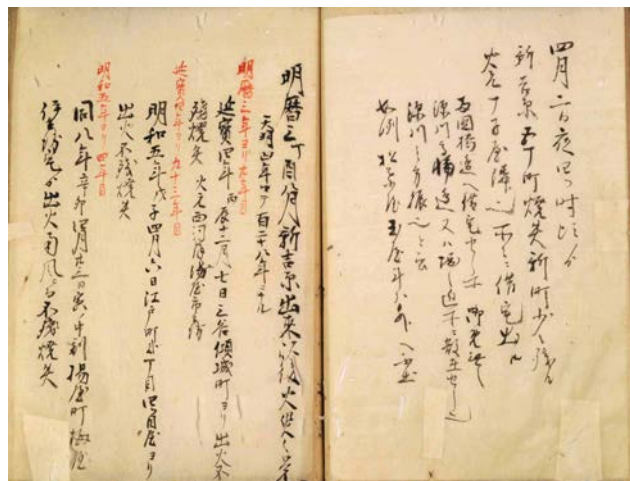


Photo.15

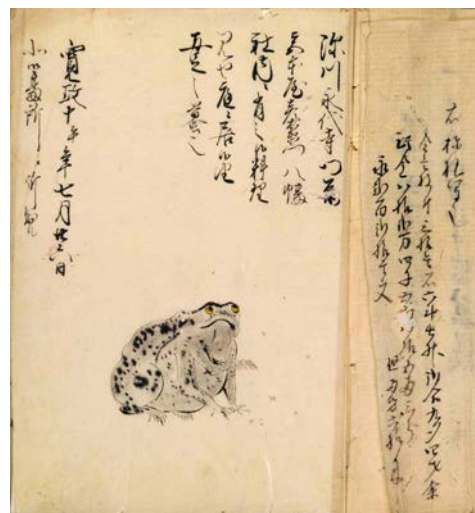


Photo.16

がいだんろく
街談録

沼津市明治史料館蔵 [前・後期展示]

全22冊からなる随筆で、50年以上にわたって記された。今回展示の資料はそのうちの5・6・7巻で、南畝が記した『街談録』原本は、現在この三冊しか知られていない。



Photo.17

えんかいいぶん
沿海異聞

国立国会図書館蔵 [後期展示]

南畝編。日本沿岸に現れた、または漂着した異国船や異国人、あるいは海外に漂流して帰国できた日本人などについて、その顛末を書き留めている。

第七章 雅俗の交遊圏

南畝の交友関係は幅広く、狂歌仲間はもちろん、戯作者の山東京伝、葛飾北斎や鳥文斎栄之に代表される浮世絵師、さらには歌舞伎役者まで、当時の文化界を代表する面々と交流がありました。まさに、江戸文化爛熟の中心人物といえます。

この章では、それらさまざまな文化人たちと南畝の交流を示す資料を紹介します。



Photo.18

ふがくず

葛飾北斎画 富嶽図

太田記念美術館蔵 [後期展示]

北斎画の富嶽に南畝が賛を寄せた扇面。2人の合作は数多く残っている。

南畝とたばこ屋

南畝の多岐にわたる業績を紹介する本展ですが、当館ならではの視点として、「南畝とたばこ屋」にスポットを当てます。たばこ屋でもあった平秩東作と蘭奢亭薫は、南畝の生涯の節目ごとに彼を支えた知友でした。このコーナーでは、南畝と彼らの関係を各種資料で紹介します。

へずつとうさく

平秩東作

新宿の馬宿の子として生まれ、14歳でたばこ屋を開業しました。文芸をよくし、平賀源内をはじめとする多数の文化人と交友を持ちました。南畝とは内山賀邸(がてい:南畝の師匠)のもとで出会い、南畝の出世作『寝惚先生文集』を刊行へと繋げたのも東作でした。以降も交友は続き、同座した作品も残されています。文芸面以外では、浄土真宗の異端の一派に潜入したり、蝦夷地探索に出たりと一風変わった経歴を持ち、その際の見聞録も残しています。



Photo.19 狂歌百人一首 古今狂歌袋

たばこと塩の博物館蔵 [後期展示]

葛屋重三郎から出された狂歌集。北尾政演(戯作者の山東京伝の絵師としての名)による挿絵で、すでに晩年に差し掛かっていた東作の姿が描かれている。

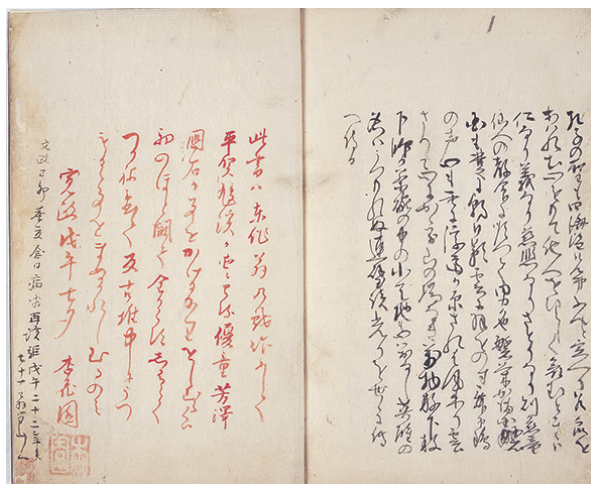


Photo.20 二国連壁談 西尾市岩瀬文庫蔵 [前・後期展示]

東作は平賀源内と親しく、本書は源内とその愛童との恋愛事情を記した江戸版BL小説。本展では下書きにあたるこの資料と、出版に備え用意された稿本『連壁談』を出展する。

らんじゃていかおる

蘭奢亭薫

飯田町中坂下(現:九段坂付近)のたばこ屋。南畝と出会った時期は未詳ですが、南畝の住む牛込とも近く、何かと接点が多かったと考えられます。文化元年(1804)に南畝の長崎赴任に同行した際には、体調不良の南畝のために医者を手配するなど何かと世話を焼き、その時の様子と薫への感謝が南畝の書簡などに綴られています。



Photo.21 葛飾北斎画 摺物〔亥年春興〕
個人蔵 [後期展示]

北斎が絵を手がけた享和3年(1803)初春の摺物。薫は「蘭奢亭香保留」として、春興の狂歌を添えている。売り物ではなく、私的に出資して作られる摺物は豪華なものも多く、ここでも金彩が用いられている。美術商として知られる林忠正旧蔵品。



Photo.22 葛飾北斎画 飲中八仙 跋

太田記念美術館蔵 [後期展示]

杜甫が8人の酒豪たちを詠んだ漢詩「飲中八仙歌」に取材する、葛飾北斎による摺物摺物のうちの一枚。長崎での薫のスケッチに基づいて北斎が描いたことがうかがえる。

返信用シート

(「大田南畝の世界」展画像希望)

たばこと塩の博物館 広報担当 裊地宛

FAX : 03-3622-8807

E-mail : horochi@tsmuseum.jp

「大田南畝の世界」展プレスリリースに掲載している画像22点を広報素材としてご提供します。必要事項をご記入のうえ、FAXかメールでご返送いただければ、ご希望の画像（jpeg）をメールでお送りします。

■広報用画像

チェック欄	画像No	キャプション・クレジット
☐	Photo.01	石崎融思画 大田南畝肖像 個人蔵
☐	Photo.02	寝惚先生文集 個人蔵
☐	Photo.03	老萊子 青裳堂書店蔵
☐	Photo.04	三十六人狂歌撰 個人蔵
☐	Photo.05	狂歌百人一首 古今狂歌袋 たばこと塩の博物館蔵
☐	Photo.06	鎌倉太平序 個人蔵
☐	Photo.07	一話一言 独立行政法人国立公文書館蔵
☐	Photo.08	仮名世説 個人蔵
☐	Photo.09	寸紙不遺 国立国会図書館蔵
☐	Photo.10	大田南畝印譜 個人蔵
☐	Photo.11	流観百図 大妻女子大学図書館蔵
☐	Photo.12	近世奇跡考 独立行政法人国立公文書館蔵
☐	Photo.13	竹橋余筆 独立行政法人国立公文書館蔵
☐	Photo.14	崎鎮八絶 東京大学総合図書館蔵
☐	Photo.15	街談録 沼津市明治史料館蔵
☐	Photo.16	街談録 沼津市明治史料館蔵
☐	Photo.17	沿海異聞 国立国会図書館蔵
☐	Photo.18	葛飾北斎画 富嶽図 太田記念美術館蔵
☐	Photo.19	狂歌百人一首 古今狂歌袋 たばこと塩の博物館蔵
☐	Photo.20	二国連壁談 西尾市岩瀬文庫蔵
☐	Photo.21	葛飾北斎画 摺物〔亥年春興〕 個人蔵
☐	Photo.22	葛飾北斎画 飲中八仙 跋 太田記念美術館蔵

■貴媒体について

貴社名 :	ご担当者名 :
ご連絡先 TEL : FAX :	e-mail :
媒体名 :	掲載予定日（号） :